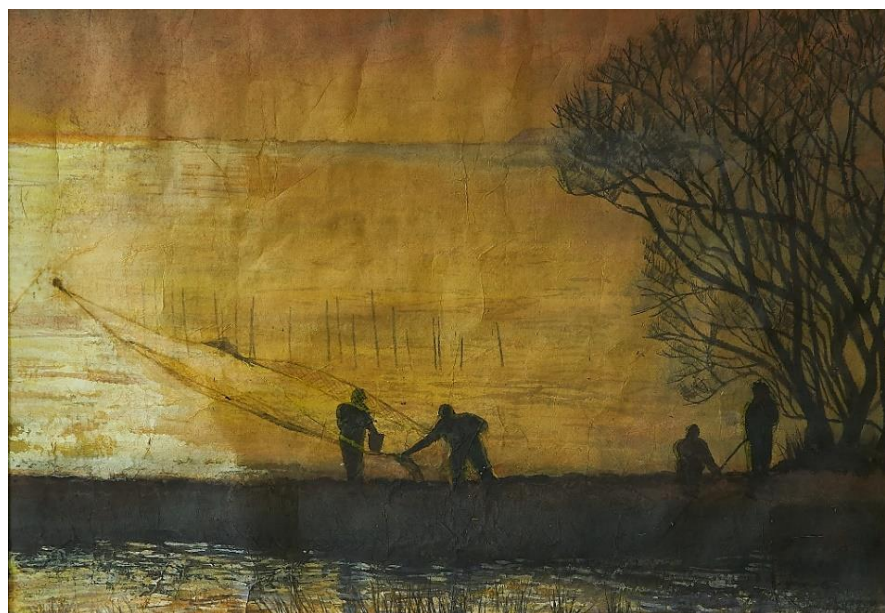


京田辺市長賞

幼少の思い出(日本画) / 若林清淳(京田辺市)

孫が最近釣に興味を持ち始め、夜明け前から良い場所を・・・と意気込んで家族を巻き込んでいる様です。ほほえましく思い描きました。



京田辺市教育委員会賞

冬の朝(日本画) / 三木瑞穂(京田辺市)

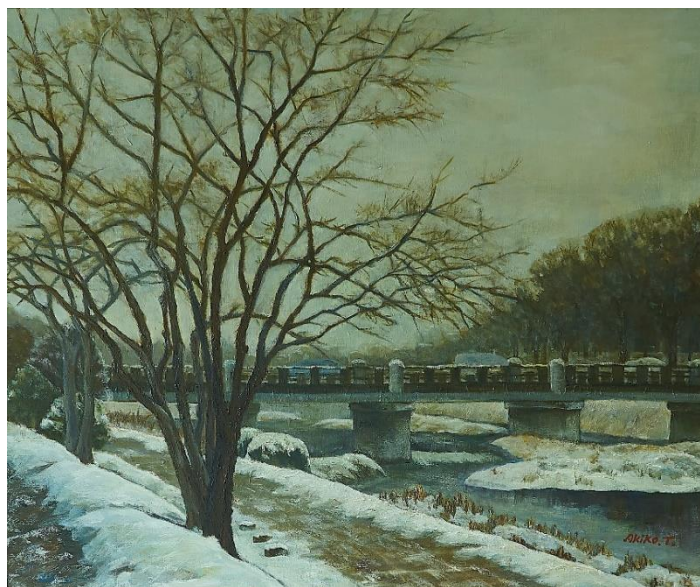
寒い冬の朝、小さな雑木林のむこうから朝日が少しずつ射しこみ林の中がきらきら輝くのを見てとても幸せな気持ちになりました。その冬の朝の冷たく清浄な空気に満ちた光景を描いてみたいと思いました。



京田辺芸術家協会賞

雪の鴨川(油画) / 徳田昭子(京田辺市)

有名な雪山ではなく、身近な雪景色を描きたいと思っていたところ、珍しく京都市内に雪が降りました。溶けない内にと急いで向い、鴨川の景色を描いてみました。



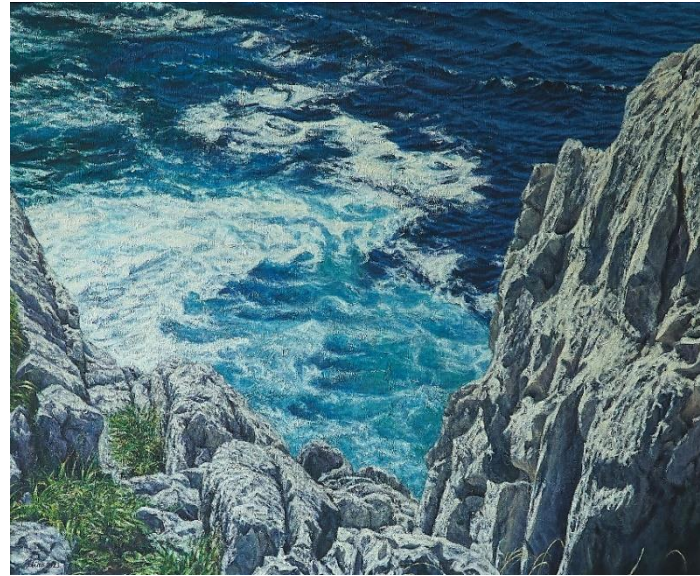
京田辺市文化協会賞

天秤と杖(油画) / 峯垣吉行(京田辺市)

文化庁京都移転記念特別賞

潮騒（油画）／中島浩（京田辺市）

白崎海岸は、白い石灰石で覆われたとてもきれいな海岸です。そこに打ち寄せる白い波、青い海がとても爽やかで美しいと思い作品にしました。



U18 審査員賞

いつもの景色（アクリル画）／仲北浦鈴（南山城村）
家の近くのお気に入りの景色を描きました。



講評

市長賞の「幼少の思い出」は、空間の中に、四人の人物が夜明けに釣を行っている風情をとらえた作品。雄大な景観を夜明けのなかでとらえているので、インパクトが付きやすい作品となっている。人物や樹木、そして川面のまだ光のあたらない部分と、背景の光のあたたまり始めた部分の対比が効果的である。

教育委員会賞の「冬の朝」は、見るからに寒そうな冬の朝である。雑木林の、そのむこう側から朝日が射しこみだした一瞬を描いている。冷たくて清浄な空気にあふれる景観の中に、木々たちの枝が、寒さの中にたたずんでいる。

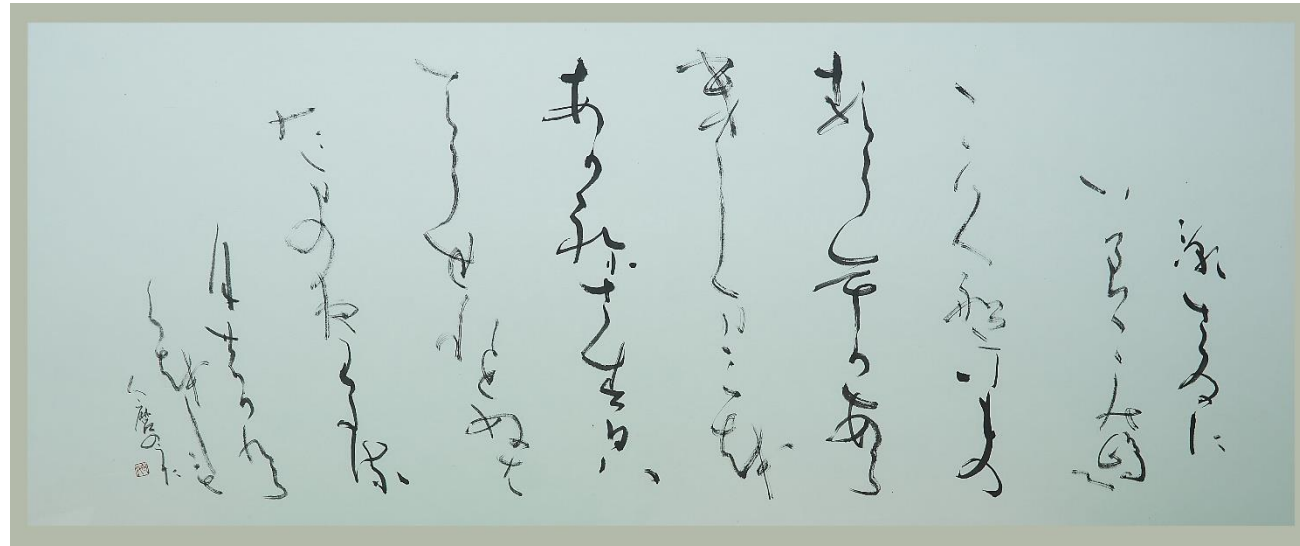
芸術家協会賞の「雪の鴨川」は、雪をもたらした空の空気の色彩と、木々たちの小枝が美しい。どっしりとした橋を中央に、もうしぶんのない構図となっている。瞬時の京の風景を的確にとらえている。

文化協会賞の「天秤と杖」は、二人の子供と風景は別個のものであろう。トリミングのおもしろさが、目をひく。

U18 審査員賞の「いつもの景色」は、いつも目にする家の近くの風景なのであろう。日常見なれた風景であるが、作者のようにちょっと目のおきどころを変えたら、風景が呼吸をしだすのだろう。こうした視点を続けてほしい。

文化庁京都移転記念特別賞の「潮騒」は、白い石灰岩の岸に打ち寄せる白い波、その後には波になろうとする青い海水がおしよせ、その外側には青黒い海が横たわっている。光によって異なる色彩の変化が、一瞬にして描きだされている。

審査員 尾崎真人



京田辺市長賞

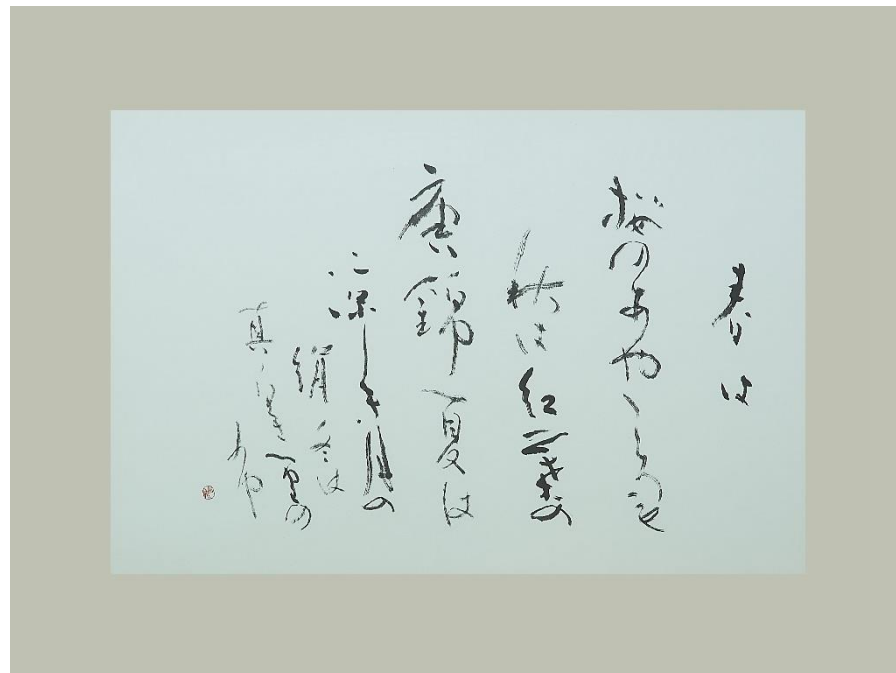
潮騒／梅原良代（京田辺市）

万葉集から柿本人麻呂の歌を二首選び、書きました。島のまわりを漕ぐ舟、夜の月の風景を思い描きながら制作しました。

京田辺市教育委員会賞

美しき天然／田中由美（京田辺市）

四季の変化を感じながら、墨の濃淡、渴筆の変化を意識して制作しました。



京田辺芸術家協会賞

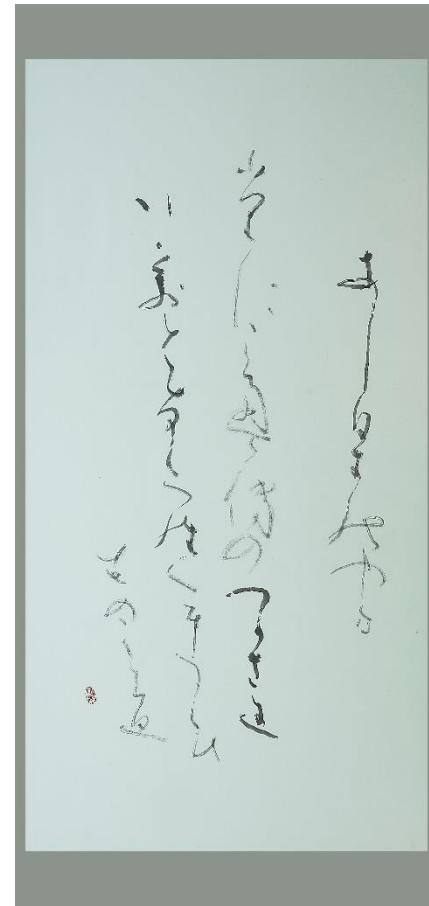
椿壽／白箸治子（京田辺市）

日々練習を重ねるのみでした。おめでたい事が…ほっとする事が…忘れる事のないようにこの文字を選びました。

京田辺市文化協会賞

鶯の声／水谷雅舟（八幡市）

作品の文字が1首にしたので少しむつかしく思いましたが、でも楽しんで書けたように思いました。



講評

長く続いたコロナもいくぶん落ちつき、これまでの日常が取りもどされつつある今日、今回も作品が審査会場に並べられました。ただ、いささか出品数が減少しており、類似したものも多くあったため、多くの種類の作品を選出することが出来なかったのが、残念な所でした。

受賞作はそれぞれこなれた線質で造形上は問題なかったのですが、「誤字」とまでは断定できないまでも、少々形を誤認して書かれている所が見受けられたのが今後の注意点で、今回の受賞作の中にもあやしい部分があることをご理解下さい。

書は人生そのものを示すものですから、毎日を「良く生きる」ことで、さらに良い作品が制作されるようになってと思います。

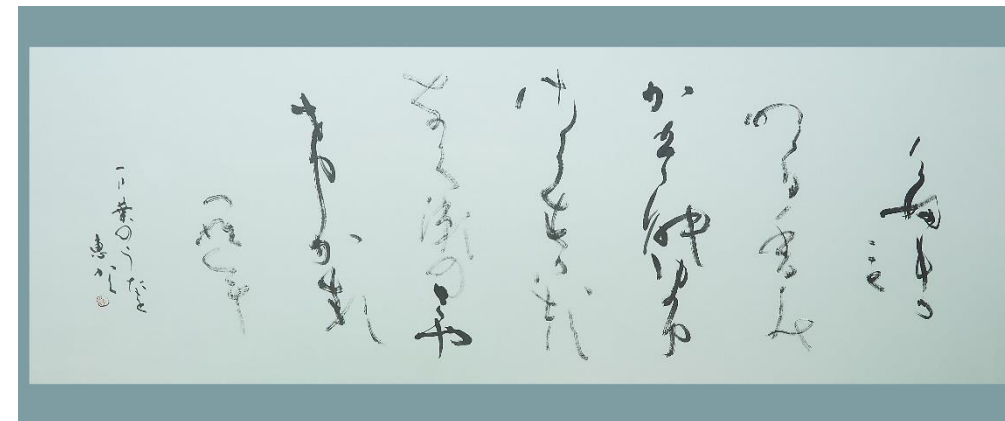
来年もまたよい作品をご出品下さい。

審査員 日比野博鳳

文化庁京都移転記念特別賞

明日香／竹多恵（京田辺市）

2尺×6尺の紙に“一つの歌を大胆に”と思い、悠久の地、明日香をイメージして書きました。行間や墨の濃淡を意識して制作しました。



講評

ゆったりと穏やかな優作群を拝見し、京田辺市の長閑な景色と相まって、楽しく審査をさせて頂きました。優美な中に味わいを見せる仮名作品が多く感心した次第です。その中でも受賞作は確かな造形と墨色の変化がすばらしく、柔らかさの中に強さを秘めたものが評価されました。漢字の受賞作「椿壽」は堂々とした二文字に墨量と強い線質で迫力を持たせ、下部の小書きとの対比で作品に変化をつけた力作で、インパクトの強いものでした。又、品の良い小額や空海の臨書作品もしっかりと書に取り組みされた秀作でした。

願わくば、より多くの書作品の出品をして頂き、京田辺市展を盛りあげていただきたいと思っております。

審査員 尾西正成



京田辺市長賞

晩秋の朝（和束町）／前野比登志（木津川市）

石仏と落葉の作品はポピュラーな被写体ですが、太陽の光条を入れ、ダイナミックに表現した作品です。



京田辺市教育委員会賞

初夏の頃（長野県白馬村）／町田譲（京田辺市）

白馬が好きで毎年何回か行きますが、この日はきれいなアルプスの山並が見る事が出来、又白花が咲いていました。これはチャンスだと思いシャッターを切りました。その時の1コマです。



京田辺芸術家協会賞

輝く鱗だ！（和束町）／村山征義（京田辺市）

急に冷え込んだ1月の和束の茶畑に着くと一面が霜に覆われていました。朝日を待つ事数分、きらきらと光りだした茶葉にシャッターを切る。美しく輝く大魚の鱗の様です。



京田辺市文化協会賞

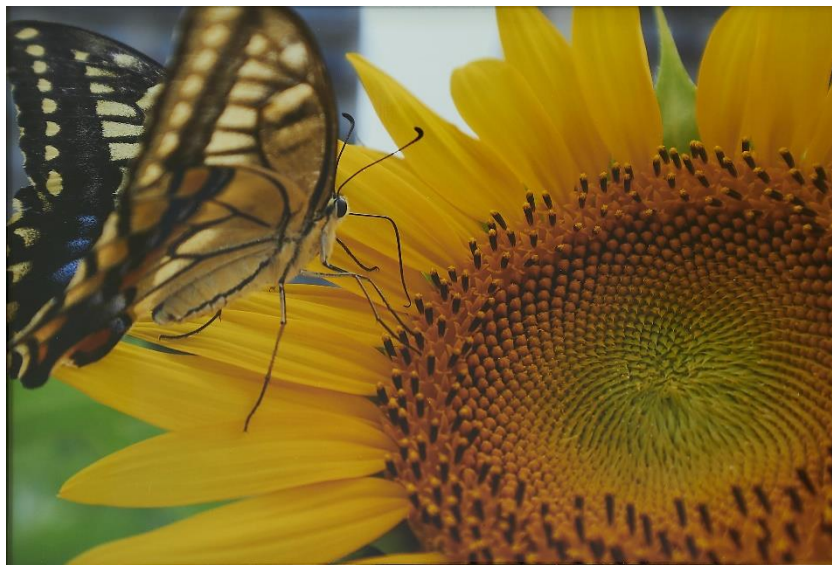
光芒とシルエット（奈良市）／
奥所雄二郎（京田辺市）

8月19日シカのシルエット写真を撮りたくて若草山山頂へ。18時29分カメラポジションを探しながら試し撮りをしていたら、太陽が山裾に沈む直前の一瞬、光芒が広がりフレーミングしている時、偶然シカが現れた。その後、空の色、雲の形がどんどん変化していき、一本の青い反薄明光線になり、消えるまで撮り続けた時の作品です。



文化庁京都移転記念特別賞

流れ橋の夕景（八幡市）／寺澤淳（京田辺市）
淀川の上流である木津川は宇治川と共に関西の大河であり八幡市にある流れ橋は有名な橋で、時代劇の舞台になる橋でもある。四季を通じて、愛されている橋である。



U18 審査員賞

蜜を求めて（滋賀県守山市）／
中川佳菜（京田辺市）

ひまわりを撮影していると、アゲハ蝶が飛んで来て蜜を吸おうと花にとまり羽を広げている瞬間を撮影しました。蝶に逃げられないように撮るのは難しかったけれど、楽しみながら撮影しました。

講評

今回は少しばかり応募点数が減りました。

しかし、その中でも今回の5点は力作揃いで感動致しました。

市長賞以下の序列に迷いがありましたが市長賞の作品は良く纏まった秀作で、逆光の中、色彩も良く、教育委員会賞の作品は爽やかな好感の持てる作品でした。芸術家協会賞は左の上のゴーストが気になりましたが、茶所の霜と云う所でしょうか…。文化協会賞、文化庁京都移転記念特別賞の2点はシルエットの美しさで入賞となりました。

今年は、18歳以下の応募が1点有り、良い作品だったのがうれしい限りです。

審査員 山本一